

プログラム紹介

基調講演

『臨床技能を磨くための気づき』

講師：遊佐 隆 (OKUNO CLINIC)

時間：10月27日(日) 10:00~11:30

場所：太田医療技術専門学校 1号館 7階 大講堂

座長：佐藤 豊 (第31回群馬県理学療法士学会 大会長)



企画趣旨・概要

臨床推論の思考過程を整理し介入するうえで、「考える力」や「問題解決できる力」を習熟するためには、臨床技能を磨くことが重要です。技能は、教えてもらうことのみで身につくものではなく、セラピスト自身が感覚し、研鑽することが必要であることから、習熟するまでに多くの時間を要します。次世代を担う理学療法士に向け、肩関節疾患に対する理学療法やPNFコンセプトに基づく理学療法から臨床技能を磨くことの重要性について解説します。

教育講演

『脊椎疾患に対する理学療法の考え方』

講師：成田 崇矢 (桐蔭横浜大学)

時間：10月27日(日) 14:10~15:40

場所：太田医療技術専門学校 1号館 7階 大講堂

座長：横山 雅人 (第31回群馬県理学療法士学会 準備委員長)



企画趣旨・概要

運動器疾患の臨床推論を展開するためには、病態(症状発生メカニズム)の把握、組織学的・機能的・力学的評価に対する知識、技術、経験が必要です。また、症状改善メカニズムに対する理解も必要とされます。知識だけでなくセラピストの技能、経験が求められるため、習熟に時間を要します。本セッションは、脊椎疾患に対する理学療法の考え方について評価から介入までの一連の流れを実例を通じて学び、臨床推論思考の重要性について解説します。

モーニングセミナー

～スポーツ理学療法～

講師：武井 健児（ぐんまスポーツ整形外科）

時間：10月27日（日） 9:00～9:50

場所：太田医療技術専門学校 1号館 7階 大講堂

座長：藤崎 和希（太田医療技術専門学校）



企画趣旨・概要

スポーツ外傷・障害のリハビリテーションにおいての最終的なゴールは、クライアントが望むパフォーマンスが不安なく発揮できることである。それに加え、可能な限り最短でゴールに到達することが重要となる。

クライアントの特徴や置かれた状況は様々であり、訴える症状は画像診断で損傷部位の構造的破綻が明らかにならないこともある。そのため、クライアントの訴えを理学療法士として受け止め、身体機能や動作を分析・評価し、組織損傷や痛み、二次的な機能低下、発生要因に分けて臨床推論を進めることが重要である。

また、スポーツの特性からクライアントのパフォーマンスが重要視されるが、パフォーマンスを発揮するためには身体機能低下の改善が必要十分と考える。

モーニングセミナー

～循環器理学療法～

講師：服部 将也（群馬県立心臓血管センター）

時間：10月27日（日） 9:00～9:50

場所：太田医療技術専門学校 1号館 7階 小講堂

座長：黒岩 平（太田医療技術専門学校）



企画趣旨・概要

循環器疾患は加齢に伴い発症リスクが増加する代表的な疾患であり、超高齢社会を迎えているわが国において、理学療法士が循環器疾患患者に関わる機会はより多くなっていくことが考えられます。特に慢性心不全患者は高齢者が多く、再入院率の高さが問題とされています。そのため心不全患者に対する理学療法では、心不全の状態を悪化させないようリスク管理をしながら、早期離床により過度の安静がもたらす弊害を予防し身体機能を維持することが重要です。そのためには、病態を把握し、症状の変化を見逃さず、状態に合った理学療法を提供できることが求められます。

本セミナーでは、実際の症例をもとに理学療法を進める際に知っておくべき知識や考え方について解説します。

モーニングセミナー

～脳卒中理学療法～

講師：石井 大祐（日高病院）

時間：10月27日（日） 9:00～9:50

場所：太田医療技術専門学校 1号館 5階 基礎医学教室

座長：大谷 知浩（太田医療技術専門学校）



企画趣旨・概要

脳卒中患者の歩行再建や、自宅復帰を目標とした理学療法に関する臨床推論の報告や研修など多数あります。問題解決を行うにあたり憶測や推測ではなく、推論するには知識や技能が必要です。目の前にいる対象者から得られる情報と今まで得た知識を整理して活用する精度をあげていくためには自己経験、自己学習だけでなく、他者の臨床場面を見る『経験』も必要と考えます。

本セミナーでは脳卒中患者の姿勢制御や運動制御に対し、理学療法評価や介入をどのように考え実行したのかを動画で事例をお示し致します。

一般演題（口述・ポスター）

口述演題：13:00～14:00 4F 教室

ポスター演題：15:50～17:00 5F 教室・ラウンジ

※生涯学習部主催 事例検討会

7F 小講堂、5F 基礎医学教室を予定



kids ルーム

場所：太田医療技術専門学校 1号館 6階 ADL 室

お子様と一緒に視聴できる部屋を用意いたします。

※内容は大講堂のセッションとなります。



ランチオンセミナー

『フレイルに対する理学療法 ～リハ栄養の視点化から～』

講師：吉田 剛

高崎健康福祉大学保健医療学部 理学療法学科

時間：10月27日（日） 11:45～12:45

場所：太田医療技術専門学校 1号館 7階 大講堂

座長：井波 敬三（太田医療技術専門学校）

協力企業：(株) クリニコ



企画趣旨・概要

医療や介護を受ける対象は入院前から低栄養状態にあることが多く、オーラルフレイルをきっかけとしたフレイル、サルコペニアが生じやすくなっている。我々はまず対象者の栄養状態を評価し、さらにその栄養を口から摂取するために必要な口腔・嚥下機能、唾液誤嚥による誤嚥性肺炎などの基本的リスクなどを評価する必要がある。インとアウトのバランスを考え、栄養状態に合わせた運動療法を提供することや、運動後の栄養補給などにも積極的に関わっていくといったリハ栄養の取り組みを理解し、実践していくことがこれからの理学療法に求められている。

本セミナーでは、リハ栄養の視点からフレイルに対する理学療法の考え方について解説する。

ランチオンセミナー

『摂食嚥下障害に対する電気治療

～頸部干渉波電気刺激を中心に～』

講師：酒井 哲郎

群馬パース大学リハビリテーション学部 言語聴覚学科

時間：10月27日（日） 11:45～12:45

場所：太田医療技術専門学校 1号館 5階 基礎医学教室

座長：横山 大輝（太田医療技術専門学校）

協力企業：(株) フードケア



企画趣旨・概要

近年、摂食嚥下障害のリハビリテーションにおいて、電気治療器の利用が注目されています。本講演では、摂食嚥下障害のメカニズムと電気治療の種類について説明した後、従来のリハビリテーションでは効果が得にくい感覚面への電気治療に焦点を当てます。

具体的には、フードケア社のジェントルスティムという干渉波電気刺激装置を用いた治療法を紹介します。ジェントルスティムは、干渉波の電気刺激によって摂食嚥下に関わる感覚神経を活性化し、嚥下機能の改善を促します。

セミナーでは、ジェントルスティムの作用機序、臨床における有効性、実際の治療方法などを解説します。また、症例を用いた治療効果の検討結果も紹介し、ジェントルスティムが摂食嚥下障害のリハビリテーションに新たな可能性をもたらすことを示します。